

令和5年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和6年5月15日

法人名

園名

裕榮福祉会

玉櫛たちばなこども園

まとめ

全体平均

4.03

第2章第2節 乳児期の園児の保育	園生活に慣れるまでは特に保護者と密に連携をとり、一人一人のリズムを大切に過ごした。又、慣らし保育中の食事・睡眠については安全第一に考えた職員体制を整え、丁寧に個別対応を行った。緩やかな担当保育の中で、子ども達との関係作りに努め、年間を通して様々な職員と安心感をもって活動できるように工夫した。テラスでの戸外遊びだけでなく、園庭で過ごす時間や野菜を育てたり触ったりする機会を設け、乳児期から継続的に自然に親しみ、様々な感覚の働きを促すよう努めている。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子ども達の興味や発達段階に応じて、柔軟に日課や環境を整えた上で、子ども達が存分に遊べるよう活動時間を増やす工夫を行った。活動時間を確保したことで、子ども達の運動量や子ども同士の関わりが増え、子ども達の好奇心や探究心の芽生えを感じることができた。行動範囲が広がると怪我や友達とのトラブルが増えるので、職員間で子どもの姿やリスクについて共有したり意見交換する時間の確保が今後も課題である。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	園庭の自然物との関わりを保護者と共有したことで、子どもや職員だけでなく、保護者の方も自然との関わりに対する関心が高まっている。今年度は保護者からの提案や協力もあり、米作りを経験することも出来た。様々な経験を通して、職員同士での対話が深まり、子どもの姿を共有しようとする意識が向上している。些細な気づきや発見等、子どものエピソードを職員全体で共有する時間を今後も大切にしていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	乳幼児期の成長・発達が著しい園児一人一人を丁寧に見守り、可能性を伸ばせるように心掛けている。保護者支援においては不安や悩みを早期に気づき、寄り添えるように、日々信頼関係の構築に努めた。性差や個人差も含めて、園児・保護者に対して「こうであるべき」といった固定的なイメージを持った関わりを持たないよう、職員間で自己の価値観や言動を省察し、柔軟に一人一人に寄り添った関わりを心掛けていきたい。
第3章 健康及び安全	健康支援は看護師、食育の推進は管理栄養士・食育委員、環境及び衛生管理並びに安全管理はリスクマネジメント委員・環境委員、災害への備えは防災委員が主となり、全職員が委員会に所属して園児の利益のために活動している。活動内容は年間計画に基づいて行っているが、その時々課題を提言したり、必要に応じて園内研修をしたりするなど職員一人一人の意識を高めて園児の健康及び安全に臨んでいきたい。
第4章 子育ての支援	子育て支援において当園に出来ること、一人一人の職員に出来ることを地道に行っているものの、実際は余裕をもって業務にあたれていない現状である。現行の子育て支援の在り方を改善・拡充していくためにも、業務内容を改め、可視化し、人的・物的環境を整えることが必要だと感じる。
第5章 職員の資質向上	職員には、一人ひとりが向上心を持ち、良い教育を提供していきたいという意欲を持ってもらいたい。そのために質の高い研修を受けてもらったり、オンとオフのメリハリをつけるために残業を極力減らしたり、じっくり話を聴くようにしたり、あの手この手で努力しているが、全職員にその気持ちを持ってもらえているかと言えば、疑わしい。どうすれば園全体の士気が高まるのか、引き続き探りながら努力を続けていく。
総合	今回の自己評価を通して、「健康・安全」について職員皆が子ども達の安心・安全を第一に考えて保育・教育に臨んでいると感じた。又、それぞれの立場で試行錯誤しながら各々の役割を果たそうとしているものの、保育・教育における課題が日々の業務の中で明確に打ち出せず、手立てを講じるに至っていないようにも感じた。より良い保育・教育の提供のために現状をどのように変えていく必要があるか、私達が出来たことを話し合う時間や場の確保だけでなく、一人一人が主体的に意見できる職場作りを具体的に考え、スモールステップで着実に進化し続けていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.93
「3歳未満児保育」	32	4.00
「3歳以上児保育」	53	3.66
「教育保育の配慮事項」	16	4.38
「健康・安全」	29	4.59
「子育ての支援」	16	4.19
「職員の資質向上」	9	3.78
計	170	4.03

データグラフ

